SOMPO JAPAN FOUNDATION NEWS　*２００８－１号*　平成２０年５月号

損保ジャパン記念財団News

●発行者：財団法人損保ジャパン記念財団 〒160-8338 東京都新宿区西新宿 1-26-1 損保ジャパン本社ビル３７階
TEL03-3349-9570 FAX03-5322-5257 http://www.sompo-japan.co.jp/foundation　Eメール:fvgp3340@mb.infoweb.ne.jp

19年度第2回通常理事会・評議員会(3月28日）開催

平成20年度 事業計画・予算が決定

平成２０年３月２８日（金）開催の理事会・評議員会において、総額１億円の事業計画および収支予算が承認されました。減速下の経済情勢のもと寄付金収入・運用収入ともに厳しい状況にありますが、今年も特色ある有益な事業を展開してまいります。

主な事業計画ならびに予算は下記の通りです。

1. 社会福祉事業

（１）ＮＰＯ法人設立資金助成（１，５００万円・４月公募）

障害者・高齢者福祉の活動を行う団体で、平成２０年度中にＮＰＯ法人の設立申請を行う団体に対し１団体３０万円、総額１，５００万円を助成する。

（２）ＮＰＯ法人組織強化資金助成（１，２００万円・下半期）

福祉系ＮＰＯ法人の「基盤強化資金」を、１団体１００万円を上限に助成する。

（３）自動車購入費助成（１，０００万円・９月公募）

東日本地区のＮＰＯ法人等の障害者福祉団体に対し１団体１００万円を上限に、総額１，０００万円を助成する。

（４）会議会合・国際交流費助成（５００万円・非公募）

－障害者福祉団体の各種会合・国際交流費の助成

－障害者福祉団体に対する地域災害発生時の緊急対策費を助成する。

2. 福祉諸科学事業

（１）研究助成（２００万円・非公募）

社会福祉・社会保障・損害保険等の研究に対する助成。

（２）研究会（講演会と合わせて４００万円）

－ディジーズ・マネジメント政策課題研究会

－ディジーズ・マネジメント・プログラム品質確保研究会

－保険業法に関する研究会

（３）講演会の開催（研究会と合わせて４００万円）

（４）刊行物の発行（３００万円）

研究会の研究成果、講演会の講演録を中心とした叢書の発行。

財団活動に関する報告書の作成

3. 損保ジャパン記念財団賞(第10回)　(９００万)

前年度、国内で発表されたあらゆる社会福祉に関する学術書、論文を対象として、優秀な著作、論文を表彰するわが国唯一の制度です。将来が期待できる若手・中堅の研究者の人材育成を目的としています。

（１）賞の内容　：　著書部門　原則１編
　　　　　　　　　　論文部門　原則３編以内

（２）対象文献　：　平成１９年４月から平成２０年３月までの間に、国内で発表された社会福祉に関する著書・論文で、指定推薦者による推薦を受けたもの。

（３）贈呈式及び記念講演会の開催

平成２０年度収支予算

(単位：円)

科　目			20年度予算額	19年度予算額	増減	備考
大科目	中科目					
Ⅰ. 事業活動収支の部						
1. 事業活動収入						
①基本財産運用収入			10,000,000	7,500,000	2,500,000	
②寄付金収入			83,000,000	83,000,000	0	
③雑収入		受取利息	300,000	100,000	200,000	
事業活動収入計			93,300,000	90,600,000	2,700,000	
2. 事業活動支出						
①事業費	社会福祉事業費		52,282,500	52,770,000	△ 487,500	
		助成金支出	42,000,000	42,000,000	0	
		諸費用支出	4,000,000	4,000,000	0	
		職員給与支出	3,087,500	3,575,000	△ 487,500	
		会合費支出	500,000	500,000	0	
		通信費支出	210,000	210,000	0	
		消耗品費支	75,000	75,000	0	
		資産管理費支出	125,000	125,000	0	
		印刷製本費支出	60,000	60,000	0	
		賃借料支出	125,000	125,000	0	
		業務委託費支出	2,100,000	2,100,000	0	
	福祉諸科学事業費		14,055,000	15,705,000	△ 1,650,000	
		助成金支出	2,000,000	2,000,000	0	
		諸謝金支出	4,500,000	4,000,000	500,000	
		刊行物関係支出	3,000,000	5,000,000	△ 2,000,000	
		諸費用支出	3,000,000	3,000,000	0	
		職員給与支出	950,000	1,100,000	△ 150,000	
		会合費支出	125,000	125,000	0	
		通信費支出	140,000	140,000	0	
		消耗品費支出	75,000	75,000	0	
		資産管理費支出	125,000	125,000	0	
		印刷製本費支出	15,000	15,000	0	
		賃借料支出	125,000	125,000	0	
	文献表彰事業費		14,860,000	14,160,000	700,000	
		助成金支出	2,500,000	2,500,000	0	
		諸謝金支出	3,000,000	2,000,000	1,000,000	
		諸費用支出	4,500,000	4,500,000	0	
		職員給与支出	1,900,000	2,200,000	△ 300,000	
		会合費支出	875,000	875,000	0	
		通信費支出	140,000	140,000	0	
		消耗品費支出	75,000	75,000	0	
		資産管理費支出	125,000	125,000	0	
		印刷製本費支出	150,000	150,000	0	
		賃借料支出	125,000	125,000	0	
		業務委託費支出	1,470,000	1,470,000	0	
事業費支出計			81,197,500	82,635,000	△ 1,437,500	

（単位：円）

科目			20年度予算額	19年度予算額	増減	備考
大科目	中科目					
②管理費	人件費	役員報酬支出	11,500,000	8,000,000	3,500,000	
		職員給与支出	3,562,500	4,125,000	△ 562,500	
	物件費	会合費支出	1,000,000	1,000,000	0	
		旅費交通費支出	700,000	700,000	0	
		通信費支出	210,000	210,000	0	
		消耗品費支出	75,000	75,000	0	
		図書費支出	300,000	300,000	0	
		備品費支出	100,000	100,000	0	
		資産管理費支出	125,000	125,000	0	
		印刷製本費支出	75,000	75,000	0	
		賃借料支出	125,000	125,000	0	
		調査費支出	200,000	200,000	0	
		諸会費支出	900,000	800,000	100,000	
		雑費支出	1,000,000	1,000,000	0	
		業務委託費支出	2,130,000	630,000	1,500,000	
管理費支出計			22,002,500	17,465,000	4,537,500	
事業活動支出計			103,200,000	100,100,000	3,100,000	
事業活動収支差額(A)			△ 9,900,000	△ 9,500,000	△ 400,000	
Ⅱ．投資活動収支の部						
1．投資活動収入			0	0	0	
2．投資活動支出	退職給与引当預金支出		153,000	65,000	88,000	
投資活動支出計			153,000	65,000	88,000	
投資活動収支差額(B)			△ 153,000	△ 65,000	△ 88,000	
Ⅲ．財務活動収支の部						
1．財務活動収入			0	0	0	
2．財務活動支出			0	0	0	
Ⅳ．予備費支出(C)	予備費支出		5,000,000	5,000,000	0	
当期収支差額(A)＋(B)－(C)			△ 15,053,000	△ 14,565,000	△ 488,000	
前期繰越収支差額			43,051,740	36,132,697	6,919,043	
次期繰越収支差額			27,998,740	21,567,697	6,431,043	

(注) 1．収支予算書は「公益法人会計における内部管理事項について」(平成17年3月23日公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議幹事会申合せ)に示された3区分の様式により作成している。
2．職員給与支出には、法定福利費支出および福利厚生費支出を含む。

財団役員が選任されました

(任期：平成２１年３月末まで)

新たに以下の方々が理事・評議員に就任いたしました。

理　事　**今井　英雄**〔４月１日付〕(株式会社損害保険ジャパンコーポレートコミュニケーション企画部長席付担当部長)

評議員　**數間　浩喜**〔４月１日付〕(株式会社損害保険ジャパン取締役専務執行役員)

田村　康弘〔４月１日付〕(株式会社損害保険ジャパンコーポレートコミュニケーション企画部長)

「自動車購入費助成」の贈呈式が各地で開催されました

「自動車購入費助成」の贈呈式が、西日本各地の損保ジャパンの支店や贈呈先で開催されました。各地で開催された贈呈式の中から、新聞紙上に掲載された主な記事を紹介します。

当財団の「自動車購入費助成」は、小規模ながら地域に根ざした活動を積極的に展開し、法人所有の自動車を所有することで、そのサービスの充実・拡大が更に大きく期待できる団体を重点的に選考しています。今回助成の対象となった団体の皆様の事業の充実、更なる活躍を心から期待しています。

<平成１９年度「自動車購入費」助成先一覧>

都道府県	団　体　名
京都府	特定非営利活動法人 城陽市の精神保健福祉をすすめる会　野の花
京都府	特定非営利活動法人　京都 DARC
大阪府	特定非営利活動法人　ハンド　イン　ハンド
大阪府	特定非営利活動法人　チャレンジハウス　どんどん
鳥取県	小規模作業所　未来
岡山県	玉野地域活動支援センター　手毬の里　虹
広島県	特定非営利活動法人　ぱぴえ　紙ふうせん事業所
佐賀県	特定非営利活動法人　ともしび
長崎県	特定非営利活動法人　あすなろ
宮崎県	特定非営利活動法人　オレンジ

贈呈された車と関係者

待望の軽ワゴンがやって来た

ワークショップ野の花

農作業へ全利用者の参加が可能に

損保ジャパン記念財団の選考経て

精神に障害をもった人達の社会復帰を目指して活動しているワークショップ「野の花」(槇尚美所長・城陽市寺田樋尻)は、新たに農作業の取り組みを始めていたが、ノドから手が出るほど求めていた車(軽ワゴン車)が29日、財団の寄贈により確保できた。

野の花は、平成15年12月にNPO法人「城陽市の精神保健福祉をすすめる会 野の花」(村上弘光理事長)が開設。和紙製品作りや下請け作業に取り組んできたが、「さらなる飛躍を」と昨年9月から、近くの倉田津与志さん(54)が経営する「倉田農場」と契約、時給制で利用者5人が農作業に励んでいる。

利用者は、約500平方㍍の農場を中心に、慣れない手に鍬や鎌を持ちながら、畑の整地、苗植え、施肥などに汗を流してきた。農作業の畑は寺田地域を中心に点在、遠い所は木津川堤防近くまで移動する。その足は利用者の自転車。このため自転車所有の利用者しか農作業に参加できなかった。

そんな折に見つけたのが財団法人損保ジャパン記念財団(佐藤正敏理事長・東京都)の助成制度。全国の福祉団体、とりわけ公的支援の行き届かない共同作業所などを中心に昭和52年以来毎年、10団体に「自動車購入費」として計1千万円(1団体100万円)を助成し続けている。

しかしながら、これがなかなかの難関。今回も西日本地域を対象に募集されたが、78団体から応募があった。財団は①活動実績②その必要性及び活動の拡がり—などを基準に選考作業。「野の花」は、ワークショップをしながら農作業という新たな分野への挑戦、その必要性などの面でアピール、申請時の熱い思いが伝わり助成が決まった。

「野の花」で行われた贈呈式では、損保ジャパンの南部実京都支店長が「皆様の活動に貢献できることをうれしく思います。さらに取り組みを拡げていただきたい」と今後のさらなる活動の拡がりに期待。施設側を代表して法人の南多恵子副理事長は「屋外で仕事がしたいという利用者の思いがあった。しかし、自転車利用者しか参加できなかった。車の導入により、全利用者の参加が可能になりました。賃金のアップにもつながり、あり難い」と村上理事長の言葉を伝えた。

【藤本博】

洛南タイムス（1／30）

＊城陽市の精神保健福祉をすすめる会　野の花＊

助成先に飾りつけをしてくださったり、会場をきれいにセッティングしてくださったりと、とても心のこもった感謝の気持ちが伝わる贈呈式だった。

直接、作業所の方のお話を伺い、いかに必要とされていたか、またこの助成の意義を改めて実感することができた。非常に感慨深い日となりました。

（京都支店　紀　カンナさん）

城陽市寺田 WS「野の花」に車購入助成金

農作業への移動手段に…

損保ジャパン記念財団 100万円の活動支援

NPO法人・城陽市の精神保健福祉を進める会・野の花(村上弘光理事長)が運営するワークショップ「野の花」(槇尚美所長)＝同市寺田樋尻＝に、財団法人・損保ジャパン記念財団(佐藤正敏理事長)から100万円の自動車購入助成金が贈られることが決まり29日、車のお披露目を兼ねて贈呈式が開かれた。西日本各地で障害者在宅福祉活動を行う78団体から実績が顕著な「野の花」を含む10団体が助成対象となったもの。

1977年10月に設立された同記念財団は、社会貢献活動の一環として一口100万円の自動車購入助成を行っているほか、99年からは一口30万円のNPO法人設立資金助成も合わせて実施。2本立てで福祉の充実をサポートしており、これまでの助成金累計額は12億8000万円に上る。

今年度は7月に全国51の障害者・高齢者福祉団体に対してNPO法人設立資金それぞれ30万円を贈ったほか、愛知県以西の西日本で障害者在宅福祉活動を行っている10団体に各100万円の助成を決定。そのうち、野の花はこれまでの活動実績に加え、昨年9月から始めた農作業に励むため、利用者の移動手段としてどうしても必要…とアピールしたことが決め手となり、助成対象施設となった。

贈呈式では損保ジャパン京都支店の南部実支店長が「野の花さんは8倍弱の競争率を潜り抜けて選定された。さらに活動の幅を広げられるよう期待する」と挨拶。同進める会・野の花の南多恵子副理事長は「倉田農場さんとタイアップして利用者が農作業のお手伝いをさせていただいておりますが、自転車で畑へ移動できる限られた利用者しか作業できませんでした。車をいただくことができ、全利用者が農作業の対象となることが何よりの喜び」と感謝の意を伝えた。

会場には城陽市の植木京子福祉課長や市社協の北川啓子常務理事らも訪れ、利用者の移動手段の充実を喜んだ。

助成金で購入したスズキ・エブリィワゴン(軽自動車)はすでに納車済み。なお、ワークショップ「野の花」は03年秋に開設され、翌年4月に法人格を取得。作業所では18人の利用者が紙すきによるハガキ作りなどに励んでおり、そのほか精神障害者グループワーク事業やサロンのつどいなど積極的な活動展開を行っている。

【利用者の移動手段として活用される軽自動車】

城南新報（1／30）

＊NPO法人　京都DARC＊

全国的な組織であるDARCですが、それでも運営に苦労をされているようで、今回の助成に対して非常に感謝された。

助成車で、会場である京都南支社に来られたのだが、お見送り時、笑顔で乗り込まれるのを見て、こちらもとても嬉しい気持ちになった。　（京都支店　紀　カンナさん）

大阪府内のNPO 2団体に助成金

損保ジャパン記念財団

損害保険ジャパンが出捐し、社会福祉助成などを行う損保ジャパン記念財団(佐藤正敏理事長)は、自動車の購入を目的に障害者在宅福祉活動を行う西日本地区の10団体に対し、1千万円の助成を決めた。そのうち大阪府内の特定非営利活動法人(NPO法人)2団体を助成先として決定した。

10日、助成先である「ハンドインハンド」(木下隆司理事長、大阪府貝塚市)と、「チャレンジハウスどんどん」(小出恭子代表、堺市中区)へ損保ジャパンの岡田正関西総務部長が訪問=写真。岡田総務部長が各団体へ「決定通知書」を手渡し、助成決定を通知した。

日刊自動車新聞(12/17)

損保ジャパン記念財団

07年度社会福祉助成(自動車購入費)

大阪府下関係は2団体に

損保ジャパン記念財団(理事長:佐藤正敏氏)は、2007年度の社会福祉助成金として、7月に全国51の障害者・高齢者福祉団体へ特定非営利活動法人(NPO法人)設立資金として各30万円、合計1530万円の助成を実施したのに続き、「自動車購入費助成」として西日本地区所在の障がい者在宅活動を行う10の団体に1000万円を助成、大阪府下関係では貝塚市窪田の「特定非営利活動法人ハンド イン ハンド」、堺市中区深井中町の「特定非営利活動法人チャレンジハウスどんどん」の2団体を助成先として決定した。

この二つの団体に対して12月10日、損保ジャパン記念財団理事長代理として岡田正損保ジャパン関西総務部長が団体先を訪問し、決定通知書を手渡し助成決定を通知した。

損保ジャパン記念財団は、社会貢献活動の一翼を担うものとして1977年10月に、損保ジャパンの出捐により設立し基本財団9億円。社会福祉助成は財団設立以来毎年実施しており、今回で31回目。助成金の累計総額は12億8000万円、社会福祉以外の事業を含む総事業費累計額は約18億8000万円となっている。

2団体の助成先は次のとおり。

▽「特定非営利活動法人ハンド イン ハンド」(理事長:木下隆司氏、大阪府貝塚市窪田)

▽「特定非営利活動法人チャレンジハウスどんどん」(代表者:小出恭子氏、堺市中区深井中町)

保険毎日新聞(12/18)

特定非営利活動法人　京都ダルク(京都府)

小規模作業所「未来」に助成金

損保ジャパン記念財団

損保ジャパン記念財団(佐藤正敏理事長)が社会福祉活動を支援するため行っている助成金の贈呈式が十日、鳥取市今町二丁目の損保ジャパン鳥取支店で行われ、本保順次支店長が小規模作業所「未来」(同市吉方温泉一丁目)の坂口愛子所長らに助成金百万円の決定通知書を手渡した。

同財団は旧安田火災記念財団として設立された一九七七年から毎年、在宅福祉活動を行う団体に助成金を贈っている。二〇〇二年に安田火災、大成火災、日産火災の三社が合併した後は同財団が事業を継続、鳥取県内ではこれまでに十三団体が助成を受けている。

贈呈式では本保支店長が「活動に役立ててください」と坂口所長と加藤佐知子指導員に通知書を手渡した。

未来では助成金を施設利用者の送迎などに使う昇降シート付き車の購入資金として活用する方針。坂口所長は「とてもありがたい。(助成金を)有効に活用したい」と話していた。

坂口所長(右手前)らに助成金の決定通知書を手渡す本保支店長

日本海新聞(12/11)

小規模作業所　未来(鳥取県)

＊小規模作業所「未来」＊

就労を希望する多くの障害者になんとしても就労の機会を提供し、全力で社会参加を支援している方々が日本の隅々におられ、そうした方々に本制度は勇気と希望を与えていると実感しました。また、このような社会福祉活動に支援している当社に大きな誇りも感じました。これからも地域に愛され、社会に貢献できる企業としての地道な努力を続けていくべきだと思います。　(鳥取支店　小沼　勝彦さん)

＊玉野地域活動支援センターⅢ型　手毬の里　虹＊

12/27（月）に助成先を奥支店長と共に訪問し、贈呈式を行いました。

以前は職員の自家用車で、作った野菜などを運んでいたそうで、スタッフの皆さんに今回の助成金贈呈を大変喜んでいただきました。『手毬の里　虹』は、代表の安藤さんがご自宅を使って運営し、「人が出来ないことをする」というモットーのもと、少ない資金で地道にコツコツと地域に根ざした活動をされていることに感銘を受け、改めてこうした社会福祉活動の重要性を再認識した１日となりました。　　　　（岡山支店　染谷　真弓さん）

ＮＰＯ法人　手毬の里（岡山県）

ＮＰＯ法人ぱぴえ　紙ふうせん（広島県）

損保ジャパン福祉助成金

ＮＰＯ「ともしび」に

贈呈式

【佐賀市】損保ジャパン記念財団（理事長・佐藤正敏損害保険ジャパン社長）は五日、本年度の福祉助成の対象に、難病者や障害者のための作業所を運営する特定非営利活動法人（NPO法人）「ともしび」（佐賀市、江頭邦子代表）を決めた。

同財団は、車の購入資金として障害者在宅福祉活動を行う団体に毎年助成しており、今年で三十一回目。本年度は近畿以西の西日本地区で七十八団体の応募があり、十団体に各百万円を贈った。

同作業所は十六人が商品の検品や梱包作業に従事。助成金で購入した車は商品の配達や材料の搬入、作業員の送迎用に利用する。

贈呈式では、損害保険ジャパン九州中央支店の石田寛之支店長が江頭代

損害保険ジャパン九州中央支店の石田寛之支店長から目録を受け取る江頭邦子代表（左）＝佐賀市の「佐賀市障がい者福祉ネット」

佐賀新聞（１２／７）

自動車購入費を
あすなろに寄贈

損保ジャパン記念財団

損保ジャパン記念財団（佐藤正敏理事長）は二十二日、長崎市の特定非営利活動法人（NPO法人）あすなろ（濱元覚理事長）に自動車購入費として百万円を贈った。

自動車購入助成費の目録を受け取る濱元理事長（右）＝長崎市、あすなろ事業所

同財団は社会福祉活動の一環で一九九九年から、活動に自動車を必要とする団体に購入費を助成している。今年は西日本地区の十団体に計一千万円を寄付。本県では知的障害者の自立支援のためにパンの製造販売をしているあすなろが選ばれた。

長崎市文教町のあすなろ事業所であった贈呈式では、損保ジャパンの藤田淳長崎支店長(47)から目録を受け取った濱元理事長が「自動車を購入できれば行動範囲がずっと広がる。われわれにとって何よりもありがたい贈り物」と感謝の言葉を述べた。

長崎新聞（１１／２７）

＊特定非営利活動法人ともしび＊

ともしびの皆様は非常に前向きな方ばかりで、職員の方々は、なるべく多くの方の社会復帰のお手伝いができれば･･･という気持ちを持っていらっしゃいました。

佐賀新聞社から取材にお越しいただけましたので、ＰＲができることも喜んでいただけました。

贈呈式後の懇談は良い雰囲気で、有意義な時間となりました。お役に立てたという嬉しさを実感いたしました。

（九州中央支店　塚本　香織さん）

特定非営利活動法人　あすなろ（長崎県）

ＮＰＯ法人　オレンジ

（宮崎県）

「第9回損保ジャパン記念財団賞」の贈呈式を開催

３月２８日、わが国における社会福祉の優れた学術文献を表彰する「第９回損保ジャパン記念財団賞」の贈呈式が、本社ビルで開催されました。

わが国の社会福祉をめぐる環境の変化の中で、その質･量・技術面の向上を図るための学問的研究に係わる優秀な人材の育成は、大変重要な課題と位置づけられます。

この賞は、こうした社会的要請に応えるため、中堅・若手の研究者の登竜門として平成１１年から実施し、今回で９回目を迎えましたが、年ごとに賞としての社会的評価、ステータスは着実に高まってきています。これまで受賞された方々は、それぞれの専門分野で着実な成果を挙げられ、社会福祉学の向上、ひいてはわが国の社会福祉の発展に寄与されています。

贈呈式は、厚生労働大臣の祝辞をはじめ、各方面から１００名を越えるご来賓の方々が出席され､受賞者のスピーチを始め熱気あふれる感動的な贈呈式となりました。

受賞文献は､推薦図書２２編､推薦論文１４編が３回にわたる審査委員会において、真剣かつ熱のこもった議論の中で慎重に審査され（審査委員長・大橋謙策　日本社会事業大学学長・日本地域福祉学会会長)、２月５日の臨時理事会で決定されました。受賞文献は、次のとおりです。

《著書部門》『障害とは何か
－ディスアビリティの社会理論に向けて－』
（（株）生活書院　平成１９年２月）
星加　良司 様　東京大学先端科学技術研究センター特任助教

《論文部門》「小児がんで子どもを亡くした母親の悲嘆過程
－『語り』から見るセルフヘルプ・グループ／サポート・グループへの参加の意味－」
（『社会福祉学』平成１９年２月）
金子　絵里乃 様　法政大学現代社会福祉学部現代社会福祉学科任期付専任助手

（役職は受賞時の名称）

受賞者には、佐藤理事長より賞状・研究助成金にあわせ、記念品として特製のひまわりの七宝焼きの額が手渡されました。